

二二一九番

あしひきの 山田やまだつく作る児こ 秀ひでずとも 縄なはだに延は  
へよ 守もると知しるがね

二二二〇番

さ雄鹿をしかの 妻呼つまよぶ山やまの 岡辺をかへなる 早稻わさだ田は刈から  
じ 霜しもは降ふるとも

二二二二番

我が門かどに 守もる田たを見みれば 佐保さほの内うちの 秋萩あきはぎす  
すき 思おもほゆるかも

二二二三番

夕去ゆふさらず かはづ鳴なくなる 三輪みわがは川の 清きよき瀬せの  
音おとも 聞きかくし良よしも